

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(11月7日～11月13日)

2022年12月22日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- アレイニク第一外務次官のスイス訪問(11月7日～9日)
- ルカシェンコ大統領がプーチン露大統領と電話会談(11月8日)
- マケイ外務大臣のインド訪問(11月9日、10日)
- エネルギー省が2024年1月1日からのベラルーシ・ロシア統一電力市場の稼働開始を発表(11月10日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●「閣僚会議(政府)に関する法律」等の改正に関する会合

- (1)大統領は、憲法の改正を受け、大統領、議会、閣僚会議(政府)等の既存の機関と全ベラルーシ国民会議の役割分担を踏まえた法改正が必要である旨指摘。
- (2)会合後、ゴロフチェンコ首相は要旨以下を述べた。

・改正の骨子は、「閣僚会議(政府)に関する法律」を憲法改正を踏まえた内容にすること。

・閣僚の任免はこれまでどおりルカシェンコ大統領が行う。

・首相は毎年、全ベラルーシ国民会議に対し、国家の社会的・経済的発展に関するプログラムの実施状況につき報告しなければならない。

(11月8日 大統領府、閣僚会議(政府))

●プーチン露大統領との電話会談(11月8日夜)

・来る集団安全保障条約機構(CSTO)の会合や、両国間の貿易・経済面での協力につき協議。

(11月9日 大統領府)

●ポーランド独立記念日に寄せた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

・ベラルーシは両国関係の協調的進展に努めており、有刺鉄線の張り巡らされた国境の壁ではなく、友好の橋を架ける用意があることを示している。我々両国の地理的な近さが、恫喝や脅迫の道具と化すことなどあり得ず、そのようなことなどあってはならない。

・残念ながら今日、不愉快極まるポーランドの政治家どもの重大な過ちの代償を支払わなければならない

っているのは、ポーランドの一般国民。ベラルーシと露は敵というイメージは人為的に作り出された虚偽であり、それは、欧州の全ての人々の生活水準を悪化させ、国際関係における信用を損ね、何百万の人々に苦しみを強いている。ポーランド国民が、そのことを理解し、来る選挙活動の際に正しい選択をするよう望む。

(11月11日 大統領府)

【外交】

●アレイニク第一外務次官のスイス訪問(11月7日～9日)

・政府関係者及び実業家らと会談。

・二国間関係、国際情勢、制裁、商業及び投資の分野における共同プロジェクトにつき、協議。

(11月9日 外務省)

●カタールでのサッカー世界選手権開催に関するグラス外務報道官の発言

・サッカー世界選手権に関し、欧州の一部の政治家や活動家がカタールに投げかけている非難は不当で、ダブルスタンダード。西側においてスポーツは、自らの政治的野心を満足させ、目的を達成するための道具に成り下がっている。

・カタール当局の説明は誰にでも分かるもので、ベラルーシとしても信頼。各国それぞれの、発展の道筋・文化・アイデンティティへの権利を尊重。

(11月9日 外務省)

●マケイ外務大臣のインド訪問(11月9日、10日)

・マケイ外務大臣は、ジャイシャンカル印外務大臣、マ

ンダヴィヤ印化学・肥料大臣、ゴヤル印商工大臣と会談した他、第 11 回ベラルーシ・インド政府間協力委員会合会及び両国ビジネスフォーラムに出席。

・マケイ外務大臣は政府間委員会において、モディ印首相のベラルーシ訪問を期待していること、ベラルーシ・インド両国直行便の就航に向けた作業が大詰めを迎えていることに言及した上で、相互貿易の拡大への意欲を表明。

(11 月 10 日 外務省)

●アヴラメンコ運輸・交通大臣とヤリ駐ベラルーシ・イラン大使の会談

自動車による国際的な輸送にあたっての許可制度の撤廃、両国間の航空便の開設、国際南北輸送回廊 (INSTC) のインフラを活用した輸送の開発等を協議。

(11 月 10 日 運輸・交通省)

【内政】

●ナチズムを想起させるとされるものの一覧の更新

(10 月 28 日付内務省決定第 271 号)

・右腕を指先まで真っ直ぐ伸ばした状態で「ジヴェ・ベラルーシ(ベラルーシ万歳)」と言うことを含め 52 点を指定。

・「ジヴェ・ベラルーシ(ベラルーシ万歳)」と言うこと自体が該当するかは不明。

(11 月 10 日 法律ポータル、「ゼルカロ(鏡)」)

●ミンスク市執行委員会(市政府)は、聖シモン・エレナ教会の建物内だけでなく、敷地内での礼拝も禁止

(11 月 9 日 「ゼルカロ(鏡)」)

●11 月 12 日現在の政治犯の数は 1,425 人

(11 月 12 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●ブレスト州における病床逼迫という情報

・ウクライナ軍参謀本部は、ロシアの傷病兵により、ブレスト州の特に地方部で病床が逼迫していること、そのため医師が地元民の診察を行えなくなっている旨発表。

・後刻、ベラルーシ保健省はその情報を否定。ブレスト州の地方部では 437 床の病床が利用可能であり、病床逼迫という情報は事実には則していないとして反論。
(11 月 13 日 BPN、保健省)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(11 月 7 日～13 日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも 158 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 37 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 476 人を阻止。

(11 月 8 日～14 日 BPN)

【経済】

●ベラルーシ原発 1 号機が送電再開

・4 月 25 日に定期修理入り。当初は約 80 日で修理完了の予定だった。

・同原発はグロドノ州オストロヴェツ近郊に所在。ロシア型加圧水型原子炉 VVER-1200 を 2 基備える。

・ロシアからの借款により、ロシア国営原子力公社「ロスアトム」が元請けとなって建設

・1 号機は 2020 年 11 月 3 日から試運転を、2021 年 6 月 10 日には商業運転をそれぞれ開始。2 号機は建設中。2021 年 12 月 22 日に核燃料を装填。

(11 月 9 日 エネルギー省、BPN)

●ベラルーシ・ロシア統一電力市場に関する発表

ベラルーシ・エネルギー省は要旨以下を発表。

・2024 年 1 月 1 日より、ベラルーシ・ロシア統一電力市場が稼働開始。第 1 段階として、両国それぞれに設置される専売公社を通じた電力の売買が行われる。

・2025 年以降、ベラルーシ・ロシア統一電力市場は、ユーラシア経済同盟(EAEU)電力市場の動向と協調。

・2027 年以降は、電力市場参加者の拡大を伴う、より深い統合が実現される見込み。

(11 月 10 日 エネルギー省)

●米国の有力 IT 企業「Work Fusion」の撤退

・同社は「ハイテクパーク(情報通信技術・スタートアップ特区)」から撤退し、ベラルーシ法人の清算手続中。

・同社の従業員数は、世界全体で 350 人以上。そのう

ちベラルーシの従業員数は 130 人以上であった。
(11 月 8 日 devby.io、「ゼルカロ(鏡)」)

- 民営医療機関「シンエヴォ(Synevo)」売却の動き**
 - ・民営医療機関「シンエヴォ」等を保有するスウェーデン企業「Medicover」は、「シンエヴォ」の売却を発表。
 - ・「シンエヴォ」は 2010 年開業。ベラルーシの 23 都市に所在。
- (11 月 10 日 Reform.by)

【抗議勢力の動き】

- ベラルーシの民主勢力と欧州評議会の合同会合の実施**
 - ・ベラルーシ側からチハノフスカヤ民主勢力代表を始め 10 人が参加。
 - ・欧州側からはペイチノヴィチ=ブリッチ議長や議員会議(PACE)等の代表者が参加。
- (11 月 7 日 「ゼルカロ(鏡)」)

- 人権団体が、インターネット利用履歴の国家保安委員会(KGB)等への開示を義務づける大統領決定に関し、国連に申し立て**
 - ・人権団体「ベラルーシ・ヘルシンキ委員会」、「Human Constanta」の他、デジタル分野での権利保護に関する国際的な非営利団体(NPO)「Access Now」が共同で申し入れ。
- (11 月 7 日 ベラルーシ・ヘルシンキ委員会、「ゼルカロ(鏡)」)

【その他】

- 中国製 COVID-19 ワクチン 200 万回分を受け取り**
- ・11 月 9 日、セニコ駐中国ベラルーシ大使は、中国「国薬集団(Sinopharm)」製 COVID-19 ワクチン「Vero Cell」200 万回分を、使い捨て注射器 200 万個とともに受領。
- ・本ワクチンは、中国政府からの人道支援物資で、本年 9 月 15 日のサマルカンドにおけるベラルーシ・中国首脳会談での合意に基づき提供されたもの。ベラルーシには 11 月 10 日か 11 日に航空便にて到着予定。
- ・2021 年から 2022 年にかけて、中国からベラルーシには、今次受領分を含め約 500 万回分のワクチンが人

道支援物資として提供されている他、ベラルーシ側が独自に 460 万回分以上を調達。
(11 月 9 日 在中国ベラルーシ大使館)

- 世界ボクシング評議会(WBC)はベラルーシ・ロシア両国の試合・選手を公認しないことを決定**
 - ・同決定は、ロシアによるウクライナ侵略とベラルーシがそれに荷担していることを踏まえたもの。
- (11 月 8 日 世界ボクシング評議会(WBC))

(了)